支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う**「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）」**の令和４年度第３回目を、京橋地域で開催しました。

１　実施日

令和４年１１月２日（水）10:00～11:30

２　出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター　９名

３　内容

- 出席者近況報告
- 意見交換　①「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」について
  ②今後の京橋地域の取り組みについて

４　出席者近況報告の要旨

メンバーが携わっている地域活動について、グリーフカフェが聖路加国際大学 PCC 開発地域連携室との協働事業になり、市民と看護職との連携の取り組みが行われるようになったことや、10 月 23 日に開催された健康福祉まつりにカーレット体験の展示スペースを用意したところ、子どもに人気があったこと、障害児の分野では就学時相談の時期となり、それらの話題が頻繁にあがることなどの共有があった。また、地域包括支援センターでは区民向けの講座を開催予定であること、高齢者施設ではインフルエンザや５回目の新型コロナウイルス予防接種の接種が始まっていること、病院では、ここ１週間で外来受診が増えてきた印象であることなどが共有された。

５　意見交換　①「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」の発行について

完成した第 3 号に関する動画（桜川敬老館について）を視聴。その後、コーディネーターより、湊カフェにおいて広報紙に関する動画を紹介したところ、再生回数が伸びたことを共有。このことから、協議体メンバーが紹介をすることによって、広報紙を見てくれる人や動画を見てくれる人が増えるのではないかと考えたことから、今後の広報紙の配布に関してメンバーのつながりのあるところに配布の協力を依頼した。また、メンバーより紙面には支えあいのまちづくり協議体のホームページにつながる二次元コードだけでなく、動画につながる二次元コードも掲載した方が動画の視聴につながるのではないかという意見が挙がった。

「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」の配布先について

- ✓　薬局。薬を取りに来る方も多く、薬を待っている間に広報紙を読んでもらえると思う。
- ✓　銭湯。家にお風呂はあるが、銭湯に行く人は多い。掲示してもらえれば広報紙の宣伝になるのではないか。
- ✓　自身が代表を務める湊カフェ。
- ✓　小学校。保護者世代が親の介護をしているという方が多い。
- ✓　障害者就労の場や民間企業など。成人した障害者の親御さんから自分たちが集まれるような場はないか相談を受けることがある。

第５号「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」の取材先について

- ✓ 喫茶アラジンはどうか。京橋地域内にある施設で、障害者就労の場でもある。高齢者分野に特化しないのであればどうか。
- ✓ 協議体メンバーが活動をしているでこぼこカフェはどうか。地域には様々な年代の人が生活をしてるので、高齢者分野に限らず、子どもの活動を紹介することでもつながるきっかけにはなるのではないか。
- ✓ 以前にも案が出ていたマイホーム新川はどうか。
  →マイホーム新川ではデイサービスを利用したい人が多いが、コロナ禍で見学が実施されず実際の様子が伝わりにくい。広報紙によりこれから利用したい人やその家族にも様子を伝えることができる。

意見交換　②今後の京橋地域の取り組みについて

京橋地域の取り組み目標として「日頃の関係づくり」「社会資源の把握」「つながるきっかけ作り(情報発信)」の３つの小目標が掲げられているが、情報発信をしていくうえで社会資源の把握は欠かせないものであることを改めて共有。そこでコーディネーターより、社会資源の把握のためには当事者である高齢者から直接聞くことがより大事なのではないかと考えたことから、高齢者を対象にしたアンケート調査を実施することを提案した。

高齢者を対象にしたアンケート調査について

＜アンケートの方法に関して＞

- ✓ 隅田川テラスを散策している人に声をかけ調査を行ってみてもよいのではないか。
- ✓ ラジオ体操には高齢者も多く参加している。そこで調査することもできる。
- ✓ 民生委員に協力してもらってはどうか。
- ✓ 明石区民館でも高齢者の活動グループを見かけた。そのように区民館などで活動している団体に声をかけてみるのもよいのでは？
- ✓ 銭湯や病院など高齢者が集まりそうな場所で調査してみてはどうか。
- ✓ 紙媒体での調査だけでなく、Google フォームで調査を行ってみてもよい。

＜アンケートの内容に関して＞

- ✓ 何を知るためのアンケートなのか、目的をきちんと伝えた方がよい。
- ✓ （人が集まる場で調査するのならば）どうやってここにつながったのかを知ることで、つながるきっかけを知る手がかりになる。
- ✓ 「どこでお茶をしていますか」や「どこでお昼を食べていますか」などを聞くことで、高齢者が多く集まる場を知ることが出来るかもしれない。例えば、高齢者がよく集まるカフェなどがあれば、そこを取材先としても面白いかもしれない。
- ✓ 高齢者がよく行く場所で私たちがまだ把握していない場所の発掘につながるとよい。
- ✓ 日常生活のことに関して聞くアンケートにしたい。
  →日常のことを聞くならば、京橋地域全体で実施するよりも、圏域を絞った方が分かりやすいのでは？

⇒ 以上の意見を踏まえ、試行的に実施することとなった。

６　今後のスケジュール

次回は令和５年２月中旬開催予定。アンケートの詳細について協議することとなった。

＜参考＞　意見交換の様子

